

堀尾氏の城郭普請

山上雅弘

1. はじめに

- ◇月山富田城から松江築城へ→速やかな新規築城が常識
躊躇する新城の築城／“忠氏”の急逝（慶長9年1604）
藩主：忠晴→吉晴の後見による藩体制
- ◇なぜか遅れた、松江城の築城 築城→慶長12～15年末・1607～1611

2. 松江城の構造 一縄張り構造とその特色一

A 概要

- ◇亀田山（標高28.4m）周辺および三の丸・三之丸ノ内（御花畑・御鷹部屋）を含む
→広大な城域を城郭用地として計画
- ◇『堀尾期松江城下町絵図』（島根大学付属図書館） 堀尾時代の唯一の絵図といわれている。
→城郭部分についてはほぼ完成、城郭・城下町の基本プランを構築。
*ただし、城郭については未着工の部分をかなり残している。

B. 各曲輪の検討

- ◇登城道と櫓台
①大手登城道／②脇虎口ノ門→ギリギリ門→水の手門→北の門／
③表御門→三之丸（千鳥橋）二之丸／④搦手門（稻荷橋・中原口）
櫓は本丸周囲及び二之丸東面
未完成が多い櫓台（櫓は本丸・二之丸に限られる。）
- ◇本丸・二之丸周辺
亀田山の山頂部（本丸、二の丸）
- ◇外曲輪（二之丸下ノ段）馬溜周辺
外曲輪（二之丸下ノ段）→本来の三之丸／馬溜→大手枳形
- ◇三之丸周辺
大名屋敷の景観／表御門の景観／廊下橋
- ◇後曲輪・外曲輪
後曲輪：土塁で囲まれた曲輪
外曲輪：北の丸（現護国神社・上御殿跡）・城山稻荷神社などの郭）
- ◇外郭＝西側に中堀・四十間堀（外堀）、東側＝米子堀（外堀）

C. 縄張りの特徴

- ◇大手道の整備と巨大な枳形。←城の玄関口
*松江城は、東側を重視、大手や大規模な枳形、天守・櫓の配置・大手登城道など
- ◇大手道は外曲輪（二之丸下ノ段・三之丸相当の郭）→二之丸→本丸を通る。
→形式的であるが一般的な形を守る。
- ◇大手道と三之丸表御門が並立。城郭の“詰め城”化が顕著に進行したタイプ。
- ◇丘陵選地・定形枳形はないが、一応虎口は“枳形”らしきものを多用する。←慶長初期の形を踏襲。
- ◇本丸・二之丸を広くし、御殿施設などに対応する意識は認められる。

3. 慶長期、西国大名の築城

- ◇慶長期“築城ブーム”と築城年表 丘陵選地から平地の方形城郭へ
①合理化と共に、②城郭の詰め城化“象徴化” →藩の政庁は大名御殿へ移動
織豊時代 岡山城・高知城（～同16年）・熊本城（～同12年）
慶長5年 福岡城（～12年）
慶長6年 姫路城（～同14年）・小浜城（～寛永19年）
慶長7年 伊予松山城（～寛永4年）・小倉城（～同13）・佐賀城（～元和元年）・今治城（～同9年）
慶長8年 彦根城（～同11年）
慶長9年 萩城（～同13年）・津山城（～元和2年）
慶長12年 松江城（～15年末）
慶長14年 篠山城・龜山城
慶長15年 名古屋城
元和3年 尼崎城・高槻城
元和4年 明石城

4. さいごに

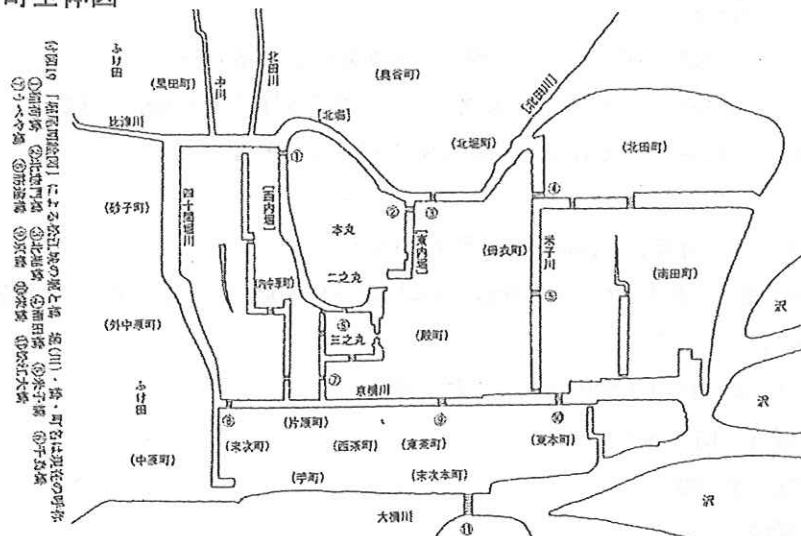
- ◇堀尾氏の松江城築城はこの時期の一般的な縄張り。／城下町も含め築城と同時に進行
城郭は慶長15年末までにほぼ完成。／プランは江戸時代を通じて変更がない→優れたもの。
・築城時期の遅れと西国外様大名を取り巻く事情、元和以降は元和一國一城令による幕府の締め付け
・城郭の多くの部分が簡略なまま留め置かれた。城郭北・西側の簡略化。
→築城時期が早ければ整備が進んだ可能性。
- ◇城郭・城下町の補修（堀の改修・浚渫）←築城を上回る優先度／藩主の交代。

※ 今の状態が歴史的な遺産。築城経緯も含め記憶すべき。

【引用・参考文献】

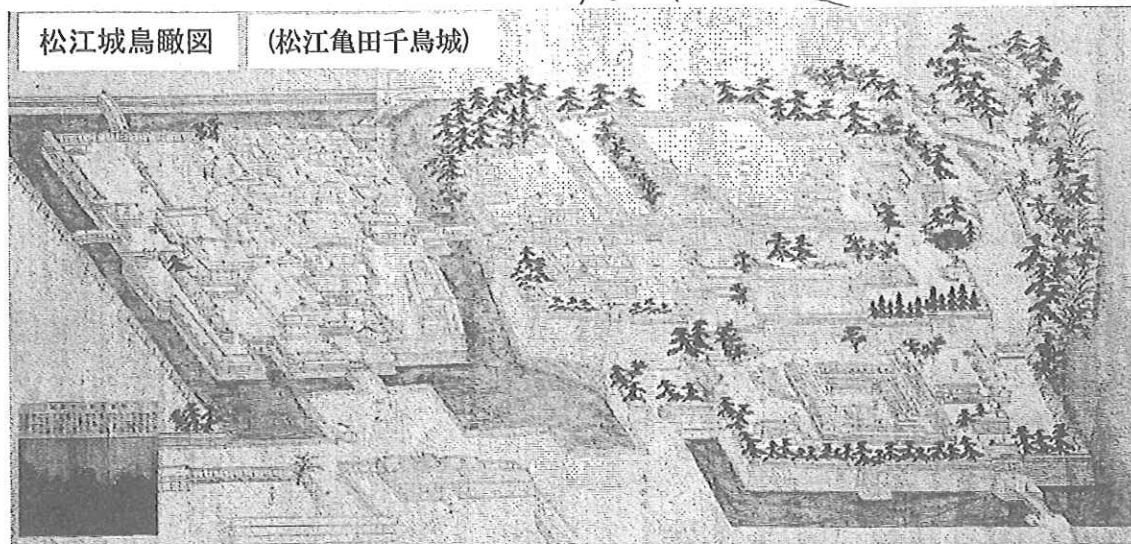
- 平井聖・村田修三など編 1979～1982「日本城郭大系」12～15巻・18巻 新人物往来社
- 島根県 1968『新修島根縣史通史編一』
- 山根正明 2009『堀尾吉晴一松江城への道 一浜松、富田、松江、城普請の軌跡一』松江市教委
- 西島太郎 2010『京極忠高の出雲国・松江』松江市教育委員会
- 西和雄 2014『松江城再発見一天守・城、そして城下町一』
- 松江歴史館 2011『松江歴史館展示案内 雲州松江の歴史をひもとく』
- 松江歴史館 2011『特別展春の巻 松江創世期 堀尾氏三代の国づくり』
- 松江歴史館 2015『平成27年度特別展一祝・国宝指定松江城天守再発見一』
- 山上雅弘 2008「枳形虎口」『季刊考古学 第103号』
- 早川圭 2007「彦根城跡本丸御広間の建物遺構について」『近江佐和山城・彦根城』城郭談話会

松江城城下町全体図

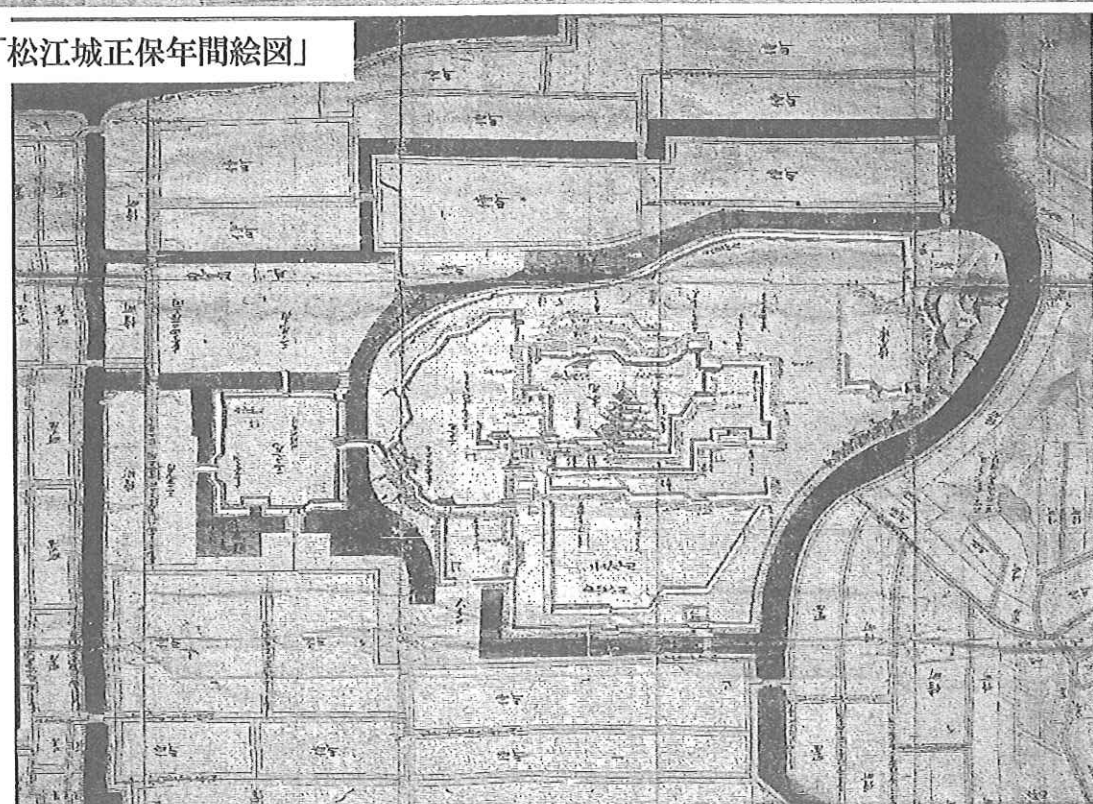


松江城鳥瞰図

(松江亀田千鳥城)



「松江城正保年間絵図」



城郭施設(建物)呼称図

(元図『御城内絵図面』)

和田嘉宥氏作成

